

高等学 校

令和 3 年度

教育研究員研究報告書

地理歴史・公民

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	3
V	研究内容	4
VI	研究の成果	14
VII	今後の課題	14

研究主題

社会の課題を把握し、その解決に向けて、社会的な事象を 多面的・多角的に考察しながら議論する力を育むための 授業改善と学習評価の充実

～「地理総合」・「歴史総合」・「公共」を見据えて～

I 研究主題設定の理由

教育研究員高校部会の全体テーマである「これからの社会を主体的・創造的に生き抜くために必要な『資質・能力』の育成に向けた授業改善と学習評価の充実について」を踏まえ、高等学校学習指導要領地理歴史、公民（平成30年3月）及び先行研究を基に、今年度の研究主題を検討した。

主題設定に当たり、これからの社会を主体的・創造的に生き抜くために必要な資質・能力について、次のように整理した。

- 1 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、現代の諸課題について理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能
- 2 地理や歴史、現代の諸課題に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力や、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力、考察、構想したことを説明する力とともに、それらを基に議論する力
- 3 よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決したり、合意形成を図ろうとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さや、人間としての在り方生き方についての自覚

また、「幼稚園・小学校・中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日）（以下、「答申」と表記。）において、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であることが指摘されていることから、現状と課題について、以下のとおり整理した。

【現状】

- 1 複数の資料から必要な情報を読み取り、比較したり関連付けたり、多面的・多角的に考察する力の育成が十分ではない。
- 2 社会に見られる課題を把握し、解決に向けて構想する力、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力の育成が十分ではない。
- 3 説明したり議論したりする学習活動の評価が十分ではない。

【課題】

- 1 様々な種類の資料を活用し、複数の情報を見比べたり結び付けたりする学習活動を取り入れる必要がある。
- 2 多面的・多角的に考察したことや構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする学習活動を取り入れる必要がある。
- 3 考察したことや構想したことについて、根拠をもって説明したり、それらを基に議論したりする学習活動の評価を適正に行う必要がある。

以上のことから、本部会では「議論する力」に着目し、「社会の課題を把握し、その解決に向けて、社会的な事象を多面的・多角的に考察しながら議論する力を育むための授業改善と学習評価の充実～「地理総合」・「歴史総合」・「公共」を見据えて～」と研究主題を設定した。

Ⅱ 研究の視点

1 社会的な事象に関する「問い」に対して、複数資料により多面的・多角的に考察する力の育成

答申では、「問い」を設定し、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論等を通して、社会的な事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することの重要性が示された。そのため、本研究では、多面的・多角的に考察するために、科目及び分野の特質に根ざした追究の視点を生かした、社会的な事象に対する「問い」の設定、並びに複数の資料を教材に使用することとした。

2 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力の育成

高等学校学習指導要領地理歴史（平成30年3月）では考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことが示され、公民（平成30年3月）では、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うことが示されている。そのために、考察、構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする学習活動を充実させることとした。

3 多面的・多角的に考察する力や議論する力を見取る学習評価の導入

高等学校学習指導要領（平成30年3月）では、教育課程の実施と学習評価として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と学習評価の充実が求められている。また、答申の補足資料において、多様な評価方法の例として、ルーブリック¹が示されていることから、本研究ではルーブリック評価表を用いて、上記1及び2の視点で育成した力を評価することとした。

Ⅲ 研究仮説

仮説1 設定された課題に関する複数の資料から必要な情報を読み取り、比較したり関連付けたりする学習活動を取り入れることで、多面的・多角的に考察する力を身に付けさせることができる。

仮説2 現代の諸課題に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連について考察したこと、社会に見られる課題の把握とその解決に向けて構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする学習活動を取り入れることで、資料等を適切に用いて論理的に示したり、根拠に基づいて自分の意見や考え方を伝え合ったり、自分の意見及び考え方を発展させたりするなど、合意形成を図る力を身に付けさせることができる。

仮説3 説明したり議論したりする力のルーブリック評価表を作成し、教員と生徒とが共有することで、教員の指導改善と生徒の学習改善につなげることができる。

¹ 成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語（評価規準）からなる評価基準表

IV 研究方法

本研究の仮説を検証するために、次のとおり学習活動を設定し、授業改善と学習評価の充実を図り、成果と課題をまとめる。

1 具体的方策

- (1) 「問い」に関連した複数の資料から必要な情報を読み取り、ワークシートに空間的な広がりや時期、推移及び政治、経済などに着目してまとめるとともに、それらを比較したり関連付けたりすることで、多面的・多角的に考察する。
- (2) 根拠や理由を踏まえ、考察したことについて説明したり、それらを基に議論したりする活動を行う。
- (3) ルーブリック評価表に基づき、自己評価を行うとともに、ワークシートの記述内容を基に教員による評価を行う。

2 検証方法

仮説を検証するため、単元指導の中で生徒がどのように変容したかを比較し、分析を行う。

- (1) 複数資料を読み取り、空間的な広がりや時期、推移及び政治、経済などに着目して記述したワークシートの記載内容を分析する。
- (2) グループワークを行い、他者の意見を踏まえて新たに考察したワークシートの記載内容を分析する。
- (3) 生徒にルーブリック評価表を提示し、生徒が行った自己評価について分析する。

3 本研究における思考・判断・表現のルーブリック評価表

表1 本研究で使用したルーブリック評価表

	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (努力を要する)	D (改善を要する)
思考・判断・表現	多面的・多角的に考察、構想したことを、資料等を適切に用いて論理的に示すとともに、 <u>根拠に基づいて自分の意見や考え方を伝え合い、自分や他者の意見や考え方を発展させ、合意形成を図ろうとしている。</u>	考察、構想したことを、資料等を適切に用いて論理的に示すとともに、 <u>根拠に基づいて自分の意見や考え方を伝え合い、自分や他者の意見や考え方を発展させている。</u>	考察、構想したことを、資料等を適切に用いて論理的に示すことが <u>できていない。</u>	考察、構想したことを、資料等を適切に用いて論理的に示すことが <u>できていない。</u>

※ 各評価の違いを下線で示している。

本ルーブリックを使用した実践を踏まえ、次のように修正すべきであると考えた。詳細については、P14「今後の課題」にて述べる。

	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (努力を要する)	D (改善を要する)
思考・判断・表現	多面的・多角的に考察し、資料等根拠に基づき <u>総合的に関連付けて主張している。</u> 議論では他者の考えを受け入れて自分の意見や考え方を発展させ <u>合意形成を図ることができている。</u>	多面的・多角的に考察し、資料等根拠に基づいて <u>主張している。</u> 議論では進んで自分の意見を表現して、また他者の考えを受け止めて <u>まとめている。</u>	政治、経済、文化などのいづれかについて資料に基づき <u>主張している。</u> 議論では課題の解決に向けて <u>的確に必要な内容を表現するとともに、他者の考えを聞いている。</u>	事実の羅列のみで <u>主張がない。</u> 議論では自分の考えを表現することが出できず、また、他者の考えを <u>理解できない。</u>

V 研究内容

全体テーマ 「これからの社会を主体的・創造的に生き抜いていく子供の育成」

高校部会テーマ

「これからの社会を主体的・創造的に生き抜くために必要な『資質・能力』の育成に向けた授業改善と学習評価の充実

各教科等における「これからの社会を主体的・創造的に生き抜くために必要な『資質・能力』」

- 1 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、現代の諸課題について理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能
- 2 地理や歴史、現代の諸課題に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力や、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力、考察、構想したことを説明する力とともに、それらを基に議論する力
- 3 よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決したり、合意形成を図ろうとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さや、人間としての在り方生き方についての自覚

高校部会テーマにおける現状と課題

【現状】

- 1 複数の資料から必要な情報を読み取り、比較したり関連付けたり、多面的・多角的に考察する力の育成が十分ではない。
- 2 社会に見られる課題を把握し、解決に向けて構想する力、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力の育成が十分ではない。
- 3 説明したり議論したりする学習活動における生徒のパフォーマンスの評価が十分ではない。

【課題】

- 1 様々な種類の資料を活用し、複数の情報を見比べたり結び付けたりする学習活動を取り入れる必要がある。
- 2 多面的・多角的に考察したことや構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする学習活動を取り入れる必要がある。
- 3 考察したことや構想したことについて、根拠をもって説明したり、それらを基に議論したりする学習活動の評価を行う必要がある。

高等学校地理歴史・公民部会主題

社会の課題を把握し、その解決に向けて、社会的な事象を多面的・多角的に 考察しながら議論する力を育むための授業改善と学習評価の充実

仮 説

- 1 設定された課題に関する複数の資料から必要な情報を読み取り、比較したり関連付けたりする学習活動を取り入れることで、多面的・多角的に考察する力を身に付けさせることができる。
- 2 現代の諸課題に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連について考察したこと、社会に見られる課題の解決に向けて構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする学習活動を取り入れることで、資料等を適切に用いて論理的に示したり、根拠に基づいて自分の意見や考え方を伝え合ったり、自分の意見及び考え方を発展させたりするなど、合意形成を図る力を身に付けさせることができる。
- 3 説明したり議論したりする力のルーブリック評価表を作成し、教員と生徒とが共有することで、教員の指導改善と生徒の学習改善につなげることができる。

研究方法

〔具体的方策〕

- 1 「問い」に関連した複数の資料から必要な情報を読み取り、ワークシートに空間的な広がりや時期、推移及び政治、経済などに着目してまとめるとともに、それらを比較したり関連付けたりすることで、多面的・多角的に考察する。
- 2 根拠や理由を踏まえ、考察したことについて説明したり、それらを基に議論したりする活動を行う。
- 3 ルーブリック評価表に基づき、自己評価を行うとともに、ワークシートの記述内容を基に教員による評価を行う。

〔検証方法〕

- 1 複数資料を読み取り、空間的な広がりや時期、推移及び政治、経済などに着目して記述したワークシートの記載内容を分析する。
- 2 グループワークを行い、他者の意見を踏まえて新たに考察したワークシートの記載内容を分析する。
- 3 生徒にルーブリック評価表を提示し、生徒が行った自己評価について分析する。

1 実践事例Ⅰ「地理A」

教科名	地理歴史	科目名	地理A	学年	第1学年
-----	------	-----	-----	----	------

(1) 単元目標

- ア 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が、地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。
- イ 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- ウ 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

(2) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 アフリカの地誌
- イ 使用教材 「高等学校 新地理A」（帝国書院）、「新詳高等地図」（帝国書院）

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が、地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(4) 単元の指導と評価の計画（5時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
	【単元の問い】アフリカは、豊かか貧しいか？				
第1時	<ul style="list-style-type: none"> アフリカの地形と気候について作図を通して理解する。 単元の問いについて、考察する。 	●			<ul style="list-style-type: none"> アフリカの地理的な情報を地図に落とし込んでいる。 【ワークシートの記述内容】(ア)
第2時	<ul style="list-style-type: none"> アフリカの歴史について概観し、史料や地図の読み取りを行い、世界との関わりの中でアフリカを位置付けながら現在への過程を多面的に考察して理解を深める。 		●		<ul style="list-style-type: none"> アフリカの歴史について、複数の資料を用いて多面的に考察し、その過程や自らの考察を整理して表現している。 【ワークシートの記述内容】(イ)

第3時	・カカオをキーワードにしてアフリカの農業の特色やプランテーション、モノカルチャーの実態を学び、世界から見たアフリカ農家の立場について考察する。		●	●	・アフリカの農業の基本事項と特色について、多面的な視点から考察し、理解している。 【ワークシート】(イ) ・カカオ農家が抱える課題について主体的に問題意識をもって取り組んでいる。 【ワークシート】(ウ)
第4時	・日本の対アフリカ貿易の推移に関する資料を読み取り、鉱工業の視点からアフリカについて理解を深める。	●			・日本の対アフリカ貿易に関する資料から、アフリカに関心が高まっていることを理解している。 【ワークシート】(ア)
第5時 (本時)	・本単元での学習を踏まえ、「アフリカは、豊かか貧しいか」という問いについて再度考え、グループで共有する。			●	・単元の問いに関する議論を通して、合意形成を図ろうとしたり、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めようとしている。【ワークシート】(ウ)

※ 評価の観点ウは、全5時間の学習活動全体を通じて評価を行う。

(5) 本時(全5時間中の5時間目)

ア 本時の目標

(ア) 単元の問いに関する複数の資料から必要な情報を読み取り、アフリカの特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性について理解する。

(イ) 現代のアフリカについて、他者の考えを基に自分の考えを発展させたり、合意形成を図るための表現力を身に付ける。

イ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
5分	<p>【単元の問い・本時の問い】アフリカは、豊かか貧しいか。</p> <p>・単元を通して考察してきた「アフリカは、豊かか貧しいか?」という問いに対する各自の考えを振り返る。</p>	・単元ワークシートを用いて、これまでの自身の思考の変容を振り返らせる。	
40分	<p>・現代アフリカに関する「栄養不足人口」、「識字率」、「安全な水資源を利用できる人口割合」の資料を参照しながら、「豊かさ」について考察する。</p> <p>・単元の問いに対する自分の意見を、上記三つの資料を根拠に再考する。</p> <p>・単元の問いに対する結論について、グループ内での議論を通して合意形成を図る。</p> <p>・三つの資料を比較し、アフリカの地域格差を理解する。</p>	<p>・左記三つの資料を掲示し、これまでの授業で考えたことも踏まえ、アフリカの人々の生活は豊かと言えるのかを、資料に基づき、多面的・多角的に考えさせる。</p> <p>・3～4人のグループに分け、考えを共有させる。</p> <p>・ワークシートを用いて、これまでの授業を振り返らせながら議論させる。</p> <p>・三つの資料から、地域格差に一定程度の傾向があることを読み取らせ、そこには地理的な要因があることを理解させる。</p>	・共通シートの内容をグループで共有し、自分の考えの変化の有無とその理由を、論理的に説明している。【ワークシート】(イ)
5分	・「アフリカは、豊かか貧しいか?」という単元の問いに対する最終的な自分の考え及びグループとしての考えを記述する。	・学習した内容やグループワークで出た意見を踏まえて、ワークシートに書き込ませる。	・単元の問いに関する議論を通して、合意形成を図ろうとしたり、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めようとしている。【ワークシート】(ウ)

(6) 本時の振り返り

ア 仮説1に関する分析

仮説1については、「問い」に関連した栄養不足人口や安全な水資源を利用できる人口割合などの複数の資料から情報を読み取り、比較したり関連付けたりする学習活動により、多面的・多角的に考察する力を身に付けることができているか、単元の途中と単元のまとめ時のワークシートの記述から生徒の変容を分析した。

生徒A【評価：A】

単元の途中	豊かな面も貧しい面もあるから中間な気持ちだけど、レアメタルもすごいから、どちらかと言うと豊か。
単元のまとめ	アフリカ全体の状態を表すのであれば、地域単位の環境を均一にならした状態で考える必要があるため、現在のアフリカはどちらかと言えば貧しい。有限な資源に頼りすぎず、今後どう持続させていくかが重要であり、農業が経済の基盤にもなれるよう安定を目指す必要があると考える。

この生徒は、単元のまとめの記述において、鉱産資源や産業及び地域的な差異など単元で学習した内容を関連付けながら問いに対して多面的・多角的に考察し、自らの考えを記述できている。

イ 仮説2に関する分析

仮説2については、現代の諸課題に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連について考察したこと、社会に見られる課題の解決に向けて構想したことを基に説明したり、それらを基に議論したりする学習活動により、資料等を適切に用いて論理的に示したり、根拠に基づいて自分の意見や考え方を伝え合い、自分の意見及び考え方を発展させたり、合意形成を図る力を身に付けることができているか、ルーブリック評価表による自己評価を分析した。

表2 ルーブリック評価表による自己評価の集計結果

	A（十分満足できる）	B（概ね満足できる）	C（努力を要する）	D（改善を要する）
思考・判断・表現	65%	17.5%	17.5%	0%

表2から、A・B評価の生徒が80%を超えており、多くの生徒が、考え方を発展させたり、合意形成を図る力を身に付けることができた、と自己評価している。

ウ 仮説3に関する分析

ルーブリック評価表を教員と生徒とが共有したことにより、教員の指導改善と生徒の学習改善につなげることができたか、生徒のワークシートの記述から分析した。

生徒B

自己評価の理由	みんながすごく詳しくて圧倒された。いろいろと頭では考えているつもりでも、言葉にすることや文章にすることは別のことで、実際に行うのは難しい。
---------	---

この生徒は、多面的・多角的に考察することは出来ていたが、考察したことを根拠に基づいて他者へ伝え、合意形成を図ることについては不十分であったと気付くことができ、学習改善につなげることができた。

また、表2から、C評価の生徒が一定程度いることが把握できた。自己評価の低い生徒が、なぜそのような評価をしたのか、それぞれのワークシートを分析した結果、「前回欠席したため課題が理解できなかった」、「伝わる言葉で説明するのが難しかった」などの記述が見られた。そこで、前時の欠席者へのフォローや、考察したことを他者と意見交換する学習活動を新たに設定するなど、指導改善を行った。

2 実践事例Ⅱ「世界史A」

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	学年	第2学年
-----	------	-----	------	----	------

(1) 単元の目標

- ア 18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解している。
- イ 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。
- ウ 近代化の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を身に付ける。

(2) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 アメリカ合衆国の膨張
- イ 使用教材 『高等学校 改訂版 世界史A』（第一学習社）

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解している。	・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。

(4) 単元の指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
	【単元の問い】 南北戦争はどの程度、奴隷を「解放」したと言えるか？				
第1時	<ul style="list-style-type: none"> この単元の問いを共有する。また、複数の資料から読み取ったことを基に、西部への領土拡大や移民の流入、北部と南部の対立について理解する。 ※取り上げる資料 ①アメリカ国旗の変遷 ②絵画「アメリカの進歩」	●			<ul style="list-style-type: none"> 西部の領土拡大の過程と、その過程の背後には先住民への抑圧があったことなどの知識が身に付いている。【定期考査、小テスト】(ア)
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料から読み取ったことを比較、関連付けながら、南北戦争や奴隷解放宣言が出された経緯や、現代のアメリカ合衆国とのつながりについて考察する。 ※取り上げる資料 ①リンカンの公開書簡 ②アメリカ合衆国憲法修正第13条・第15条 ③黒人諸法の解説文		●		<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料から情報を読み取り、その内容に基づき単元の問いに対する自分の考えを文章などで表現している。【ワークシート】(イ)

第3時(本時)	<ul style="list-style-type: none"> これまで考察した自分の考えをグループで共有し、単元の問いに対する考えをグループで考える。 	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料から情報を読み取り、その内容に基づき単元の問いに対する自分の考えを文章などで表現している。【ワークシート】(イ) 授業での活動に参加し、単元の発問に自分なりに答えようとしているとともに、グループで単元への問いの「最善解」を考えようとしている。【発問・授業観察】(ウ)
---------	--	---	---	---

(5) 本時(全3時間中の3時間目)

ア 本時の目標

(7) 複数の資料から読み取れることを基に、「南北戦争ほどの程度、奴隷を『解放』したと言えるか?」という単元の問いへの考えを説明し、文章などで表現している。

(イ) 現代と過去との歴史のつながりに気付き、学習意欲を高め、主体的に学習に取り組んでいる。

イ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
3分	【単元の問い】 南北戦争ほどの程度、奴隷を「解放」したと言えるか?		
27分	<ul style="list-style-type: none"> 前時で提示した単元の問いを再確認するとともに、本時で行う活動の大まかな流れを理解し、見通しを立てる。 ①前時でまとめた単元の問いへの自分の考えをペアで共有する。 ②他者の考えを知った後に、再度自分の考えをまとめる。 ③個人の考えを持ち寄り、3~4人のグループで(1)若しくは(2)のを行う。 (1) 「メンバーの意見をまとめて一つの考えをつくる」、 (2) 「単元の問いに最も適切に答えられている解答を選ぶ」 ④全体でグループの考えを共有。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元を貫く問いや、本時の流れを明示することで、生徒が学習の見通しを立てやすいようにする。 他者の考えから「良いと思うところ」を見付けるための活動であると伝える。 必ずしも自分の考えを変える必要はないことを伝える。また、「他者の考えを参考に、自分の考えを深める」という行為のモデルを示す。 例えば、(1)と(2)の方法があることを示し、複数の意見の一つにまとめるモデルを示す。 単元の問いには決まった答えがあるわけではないが、資料などに基づいて考えることが大切だと伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料から情報を読み取り、その内容に基づき単元への問いに対する自分の考えを文章などで表現している。【ワークシート】(イ) 授業での活動に参加し、単元の問いに自分なりに答えようとしているとともに、グループで考えようとしている。【発問・授業観察】(ウ)
10分	<ul style="list-style-type: none"> 大坂なおみがマスクを着用した理由を問われ、「あなたがたはどんなメッセージを受け取ったんですか? ポイントは、人々に議論を始めてほしいということだった。」と答えたことについて考察する。 振り返りシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的事象と現代とのつながりを生徒に意識させるよう工夫する。 ルーブリックに基づく自己評価を行わせる。 	

(6) 本時の振り返り

ア 仮説1に関する分析

仮説1については、「問い」に関連した絵画やアメリカ合衆国憲法、リンカンの書簡などの複数の資料から情報を読み取り、比較したり関連付けたりする学習活動により、多面的・多角的に考察する力を身に付けることができているか、単元の途中と単元のまとめ時のワークシートの記述から生徒の変容を分析した。

生徒C【評価：A】

単元の途中	奴隷の解放は 99%達成されたと思う。合衆国憲法修正第 13 条で奴隷制が廃止されたから。
単元のまとめ	奴隷の解放は 60%くらいの達成度であると思う。連邦を救う手段として奴隷解放宣言が出されたこと、元黒人奴隷の権利を制限する州の憲法が存在したことなどを聞いたから。

この生徒は、単元の途中では、合衆国の憲法が修正されたことのみをもって、奴隷解放がほとんど達成されたと記述していたが、単元のまとめでは、奴隷解放宣言が奴隷解放を目的として出されたわけではないことや、合衆国憲法が修正され、奴隷制を禁止しても、州によっては、元黒人奴隷の権利を制限されていたことなど、多面的・多角的に考察し、自らの考えを深めている。

イ 仮説2に関する分析

仮説2については、現代の諸課題に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連について考察したこと、社会に見られる課題の解決に向けて構想したことを基に説明したり、それらを基に議論したりする学習活動により、資料等を適切に用いて論理的に示したり、根拠に基づいて自分の意見や考え方を伝え合い、自分の意見及び考え方を発展させたり、合意形成を図る力を身に付けることができているか、ルーブリック評価表による自己評価を分析した。

表3 ルーブリック評価表による自己評価の集計結果

	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (努力を要する)	D (改善を要する)
思考・判断・表現	27%	40%	33%	0%

表3の結果から、A・B評価の生徒が60%を超えており、半数以上の生徒が、考え方を発展させたり、合意形成を図る力を身に付けることができた、と自己評価している。ワークシートの記述では、「質問を聞いて、その人の意見を取り入れた」などの感想が見られた。一方で、3分の1の生徒はC評価をつけており、それらの生徒の多くは、自らの考えを伝え、他者の意見を聞くことは出来ていたが、あくまで一方通行であり、双方向の議論や、合意形成や他者の意見を基に自らの考え方を深める、というところまでは至らなかった。

ウ 仮説3に関する分析

ルーブリック評価表を教員と生徒とが共有したことにより、教員の指導改善と生徒の学習改善につなげることができたか、生徒のワークシートの記述から分析した。

生徒D

自己評価の理由	みんなちょっとずつ意見が違ったので、もう少し考えようと思った。
---------	---------------------------------

この生徒は、考察したことについて説明したり、それらを基に議論したりする活動を行うことで、他者の考えが自分の考えと異なること、自分の意見や考え方を発展させ、合意形成を視野に入れた議論をする必要性に気付くことができた。

さらに、ワークシートの記述に対して「○○の資料について考察しよう」、「他者の意見との共通する部分と異なる部分を整理してみよう」などの改善点を指摘することで、生徒の学習改善につなげることができた。

また、表2の結果から、C評価の生徒が多くいることが把握できた。ワークシートを分

析した結果、資料から読み取った情報の活用方法の指導や、合意形成を目指して議論する活動などを計画的に単元指導計画に取り入れる必要があることが分かった。

3 実践事例Ⅲ「政治・経済」

教科名	公民	科目名	政治・経済	学年	第3学年
-----	----	-----	-------	----	------

(1) 単元の目標

- ア 財政の働きと仕組み及び租税などの意義について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。
- イ 持続可能な財政及び租税の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ウ 現代日本の政治・経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。

(2) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 政府の経済的役割と租税の意義
- イ 使用教材 『高校政治・経済』（実教出版）

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
・財政の働きと仕組み及び租税などの意義について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。	・持続可能な財政及び租税の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	・現代日本の政治・経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。

(4) 単元の指導と評価の計画（2時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
第1時	<p>【単元の問い】財政を健全化するためには、どうしたらよいのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府の経済的役割と租税の意義及び財政の仕組みについて理解する。 	●			財政政策の意義、日本の財政の課題、租税について理解している。【ワークシート】(ア)
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・財政健全化のための方策を考える。 		●	●	基礎的財政収支の均衡について考察し、表現している。 【ワークシート】(イ、ウ)

(5) 本時（全2時間中の2時間目）

- ア 本時の目標
 - (ア) 一般会計の歳入と歳出の構成と現在及び将来の公債依存度について理解する。
 - (イ) 基礎的財政収支の均衡に向けた取り組みを考える。
- イ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
5分	<p>【単元の問い】財政を健全化するためには、どうしたらよいのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習目標と評価規準について確認する。 ・前時の内容を振り返り、基礎的財政収支について確認する。 ・一般会計の円グラフの読み取り方を理解する。 	・学習目標と評価規準を示す。	

20分	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度と2年度の一般会計を比較し歳出、歳入それぞれについて各項目に注目して、割合が高い項目を読み取る。 令和2年度の基礎的財政収支を計算する。 歳出で社会保障費が増加した理由を考える。 歳入で消費税が増加した理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 歳入は消費税が最も多いことを気付かせる。歳出では社会保障関係費の割合が増加していることを気付かせる。 基礎的財政収支が赤字であることに気付かせる。 基礎的財政収支を均衡を図るための方策について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に向けて考察、構想することができている。 【行動観察、ワークシート】(イ)
20分	<ul style="list-style-type: none"> グループワークを行い、令和2年度の一般会計の基礎的財政収支の均衡を図るための方策について考察する。 グループ内で合意形成を図り、意見を一つにまとめる。 グループごとに発表し、違う立場での意見を聞いて、自分の感想を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> 財務省発行の財政に関わる複数資料を準備し、歳入と歳出の内訳から、より具体的に考えさせる。 発表のメモを取るよう促す。 他者の意見を聞き、均衡策の考察をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 財政に関する課題について主体的に解決しようとしている。 【発表、行動観察】(ウ)
5分	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料に基づき、自分の考えをまとめ論述する。 自分の考えを整理し、根拠をもって記述する。 ルーブリックに基づき、自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> OECDの報告書を提示し、自分の考えに根拠をもつように促す。 ワークシートに論述させ、ポートフォリオ評価に生かす。 教員評価を付け、授業改善及び生徒の学習状況の評価としてフィードバックする。 	<ul style="list-style-type: none"> 考察、構想したことを、根拠をもって説明している。 【ワークシート】(イ)

(6) 本時の振り返り

ア 仮説1に関する分析

仮説1については、「問い」に関連した一般会計などの我が国の財政に関する複数の資料から情報を読み取り、比較したり関連付けたりする学習活動により、多面的・多角的に考察する力を身に付けることができているか、単元のまとめ時のワークシートの記述から生徒の変容を分析した。

生徒E

単元の途中	財政赤字であるため、公共事業を削減すればよい。
単元のまとめ	財務省の資料から、公共事業費には防災や減災に関する予算が含まれていることが分かり、公共事業費を削減するのは難しいと感じた。

この生徒は、単元の途中では、一般会計の資料から財政赤字であることを読み取り、公共事業を削減することで歳出を減らせばよい、と考えていたが、その後財務省の別の資料から、公共事業費の具体的な用途を読み取り、単元のまとめでは、多面的・多角的に考察し、自らの考えを深めている。

他の生徒の記述を分析すると、ほとんどの生徒が、一般会計の歳入において、公債金を除くと消費税が最も多いことに気付くことができ、消費税率の引き上げについても言及できており、身近な生活に関連させて考察することができていた。一方で、歳出において社会保障費が最も多くなっている理由として少子高齢化社会について記述している生徒は多かったが、少子高齢化に伴う給付の増加まで結び付けて考察できている生徒は少数であった。身近な経験から離れた事象に対しても考察を深めさせるための資料の精選などが課題である。

イ 仮説2に関する分析

仮説2については、基礎的財政収支の意味や意義、特色や相互の関連について考察した

こと、社会に見られる課題の把握とその解決に向けて構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする学習活動により、資料等を適切に用いて論理的に示したり、根拠に基づいて自分の意見や考え方を伝え合い、自分の意見及び考え方を発展させたり、合意形成を図る力を身に付けることができているか、ルーブリック評価表による自己評価を分析した。

表4 ルーブリック評価表による自己評価の集計結果

	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (努力を要する)	D (改善を要する)
思考・判断・表現	37%	37%	26%	0%

表4の結果から、A・B評価の生徒が70%を超えており、考え方を発展させたり、合意形成を図る力を身に付けることができた、と自己評価している。ワークシートの記述では、「年金と医療費を削減して歳出を減らす方策を考えたが、他者の意見を聞いて、少子高齢化が進展している中で高齢者への負担が大きく、現実的ではないと思った」などの感想が見られた。一方で、4分の1の生徒はC評価をつけており、考察したことが一面的であったり、他者の意見を基に自らの考え方を深めることまで至らない、と自己評価している生徒が見られた。

ウ 仮説3に関する分析

ルーブリック評価表を教員と生徒とが共有したことにより、教員の指導改善と生徒の学習改善につなげることができたか、ワークシートの記述を分析した。

自己評価がC評価であった生徒のワークシートを分析した結果、複数の資料を比較する時間を確保し、内容について協議する場面を増やしていく必要があることが分かった。

また、ルーブリック評価表を示すことで、目標が明確になるとともに、教員による評価結果をフィードバックすることにより、現在の到達段階や改善点が明確になり、生徒の学習改善につなげることができた。

VI 研究の成果

1 多面的・多角的に考察する力を身に付けさせること

複数の資料から情報を読み取らせる活動によって、新たに獲得した知識と既習の知識を結び付けて具体的な根拠に基づき考察することができるようになった。事例では代表的な生徒の記述を取り上げたが、「地図や資料から自分の考えをまとめて発展させることができた」など、他の多数の生徒でも同じ様な変容が見られ、多面的・多角的な視点から思考を深めることができた。

2 自分の意見を論理的に示し、根拠に基づいて考え方を発展させ、合意形成を図ろうとする力を身に付けさせること

ルーブリック評価表を示すことで、「資料や数字など根拠に基づいて説明することができた」など、論理的に意見を述べる際に必要な見方・考え方や根拠を意識しながら、自分の言葉で表現しようとする姿勢が身に付いた。また、全ての実践において「他者の意見を聞き、新しい考

え方や捉え方を学ぶことができた」など、他者との意見交換を通して思考が刺激され、一人一人の意見が発展している様子が見られた。また、「自分では思い付かなかったことまで考えている他の生徒の意見を聞き、ためになった」など、他者の意見を引き出し、同じ資料に基づく判断であっても、生徒間で意見や視点が異なることに気付き、異なる考えをどのようにして合意形成を図っていくのか、議論の必要性を認識できていた。

3 教員の指導改善と生徒の学習改善につなげること

ルーブリック評価表の提示と生徒の自己評価及び振り返り(ワークシート)によって、教員は生徒の変容・成長を適切に把握し、指導の改善を図ることができ、生徒は自分の意見や考えを説明する活動において、ルーブリックで求められる力と、生徒自身が自らの意見をまとめ上げ伝達する過程を比較し、自分自身の到達度と課題を把握し、学習改善につなげることができた。

生徒 F

自己評価の理由	資料から必要な情報は読み取ることができた。自分の意見もしっかり言えたが、理由をもう少ししっかり説明できるようになりたい。
---------	--

この生徒は、ルーブリックを照らし合わせて自らの到達度を把握し、Bと自己評価した。自らの意見の理由を、資料から読み取った情報を根拠として説明することが課題であることに気付き、学習改善につなげることができた。

Ⅶ 今後の課題

1 多面的・多角的に考察する力を身に付けさせること

生徒の思考を全て記述させて見取することはできないため、ペアワークやグループワークの前後の記述内容を比較するだけでは、多面的・多角的に考察する力が思考力として生徒に身に付いたのか判断することが難しかった。考察に必要な思考の手順をどのように生徒に示すか、効果的に考察を見取る手法について研究する必要がある。

また、本研究では教員が「問い」を提示したが、生徒自身が「問い」を立て、現代的諸課題と結び付けて考察を深めるためには、教員の提示した資料のみを問いに答えるための根拠とするのではなく、生徒自身が活用可能な資料を集め、それを基に探究する力を育むための手法の開発と働きかけが必要である。

2 自分の意見を論理的に示し、根拠に基づいて考え方を発展させ、合意形成に向かおうとする力を身に付けること

議論の前提となる知識の定着や考察が不十分なまま、意見の共有や合意形成のための議論に移ってしまっているため、根拠に基づいて自分の考えを説明することができなかつたり、他者の意見を受けて自らの考えを発展させたりすることができなかった生徒が見られた。複数の資料の読み取り、比較したり関連付けたりするための時間を確保したり、他者の意見を活用して意見をまとめる学習活動を増やしたりする必要がある。

合意形成において、「単元の問い」が、必ずしも生徒一人一人の学習意欲を高めるための具体的な問いになっていなかったために、生徒の取組状況に大きな差が見られ、自己評価の違いに

も影響したものと思われる。C評価をした生徒のワークシートを見ると、「問いの内容が理解できず、何をすればよいのか分からなかった」と感じていた生徒が複数見られた。生徒が問いの内容を理解し、問いの回答に向けて自ら主体的に学習活動に参加し、答えを導き出す必要性を感じられるような本質的な問いとなるように精査が必要である。さらに、一度の合意で終わることなく、新たな資料や観点を踏まえて更に考察を深めていくために、考察したことを根拠をもって説明したり、意見を一つにまとめようとしたりする学習の更なる充実と次につながる問いの設定が課題である。

3 教員の指導改善と生徒の学習改善につなげること

ルーブリック評価表を活用して自己評価を実施したが、ルーブリック評価表の内容が分かりにくく、生徒が適切に自己評価できていない場面が見られた。具体的には、ルーブリックの基準の表現があいまいであったり、文が長すぎたりして、分かりにくい基準になっていた。生徒の感想や自己評価の理由を基に、ルーブリック評価表を改善した(P3)。ルーブリック評価表を常に見直し、生徒の声を取り入れながら改善する必要がある。また、教員から生徒に一方的に示すだけでなく、教員と生徒の間でどのようにルーブリック評価表についての共通理解を図るのかという点に対する研究が必要である。教員による評価を生徒にフィードバックすることで、生徒の学習状況が改善できるような仕組みを構築できると、生徒の学習状況を基に指導改善につなげることができ、指導と評価の一体化を図ることができるようになると考えられる。また、論理的に根拠を示し合意形成を図る活動を、単元のみではなく、年間の指導計画の中に計画的に取り入れていくカリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた指導改善が必要である。

令和3年度 教育研究員名簿

高等学校・地理歴史・公民

学 校 名	職 名	氏 名
東京都立六本木高等学校	教 諭	◎大倉 皐月
東京都立浅草高等学校	教 諭	大熊 政人
東京都立国際高等学校	主任教諭	常泉 大介
東京都立世田谷泉高等学校	教 諭	河西 正貴
東京都立荻窪高等学校	主任教諭	相川 浩昭
東京都立三宅高等学校	主任教諭	高橋 晴喜
東京都立稔ヶ丘高等学校	主任教諭	深谷 公祐
東京都立大山高等学校	主幹教諭	大館 一基
東京都立小平南高等学校	教 諭	徳永 慧
東京都立晴海総合高等学校	主幹教諭	豊浦 孝則
東京都立砂川高等学校	主任教諭	安齋 洋一

◎ 世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部高等学校教育指導課
指導主事 島田 哲男

令和3年度
教育研究員研究報告書
高等学校・地理歴史・公民

令和4年3月

編集 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849